

お客様と仲間の笑顔のために



事業戦略説明会

2025年5月30日

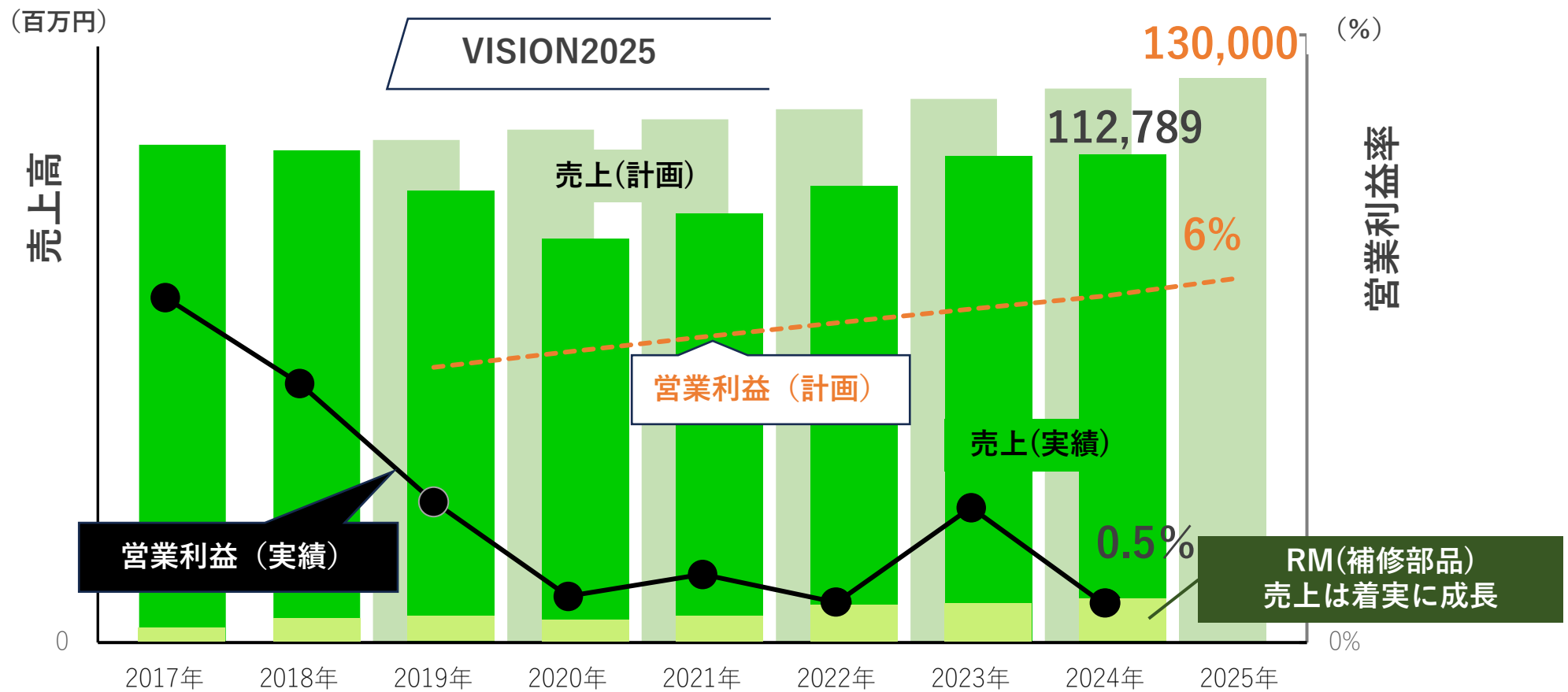
大豊工業株式会社

1. VISION2025の振り返り

2. 中期経営計画（2025年～2027年）

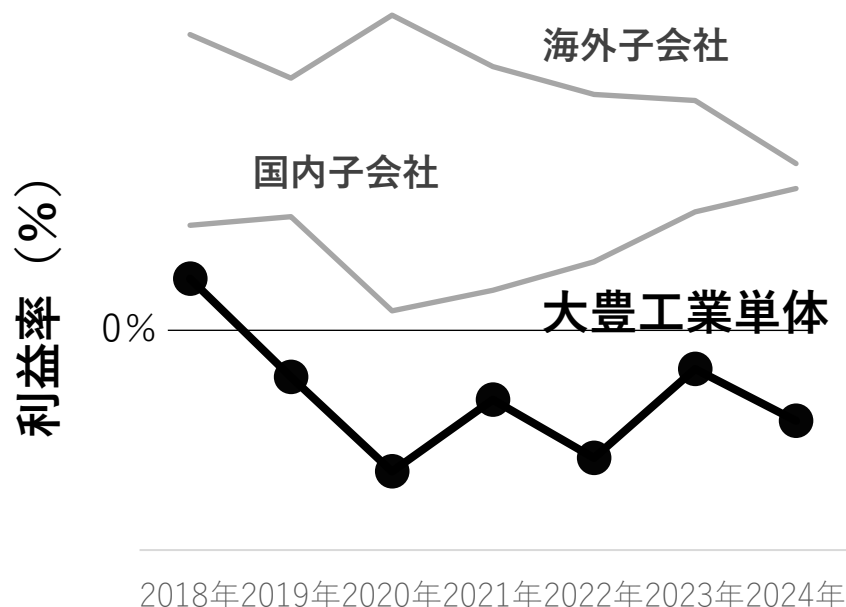
3. VISION2030

【VISION2025 売上高と営業利益率】

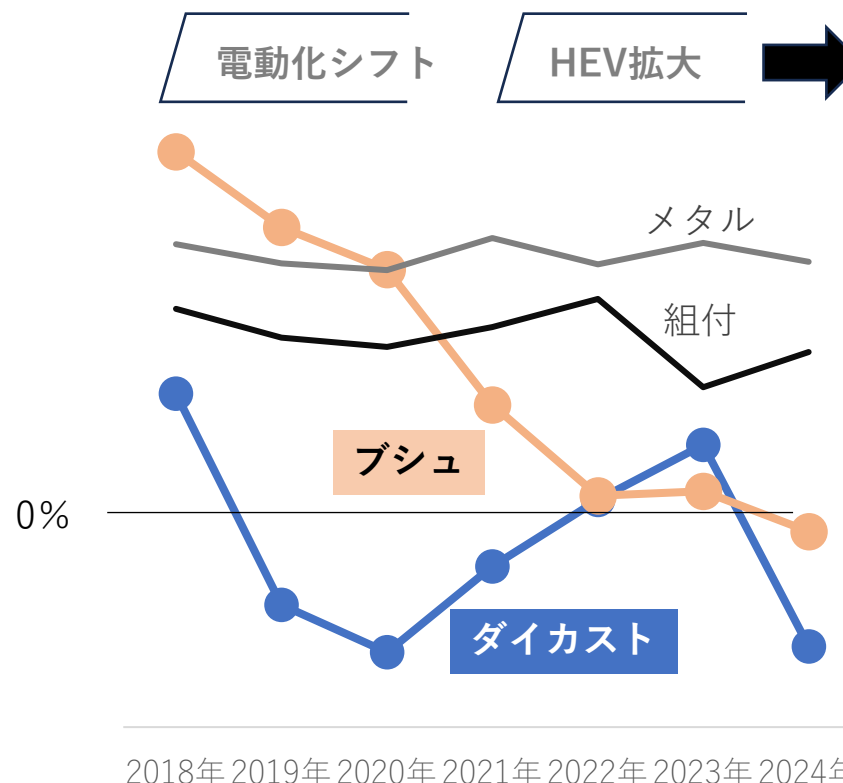


目標値に対し、売上・営業利益率 共に未達見込み

【事業体別利益率】

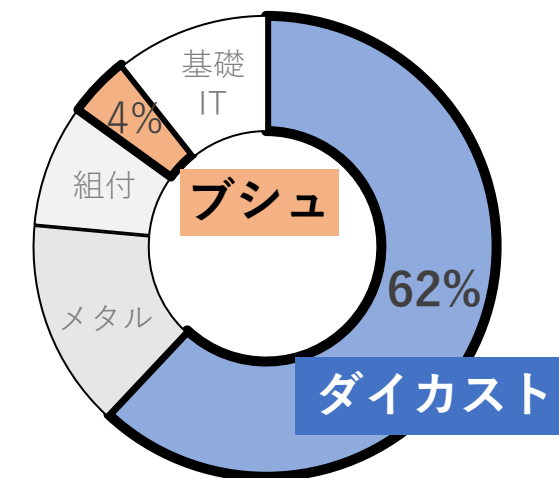


【単体 事業別利益率】



ダイカスト事業を急拡大

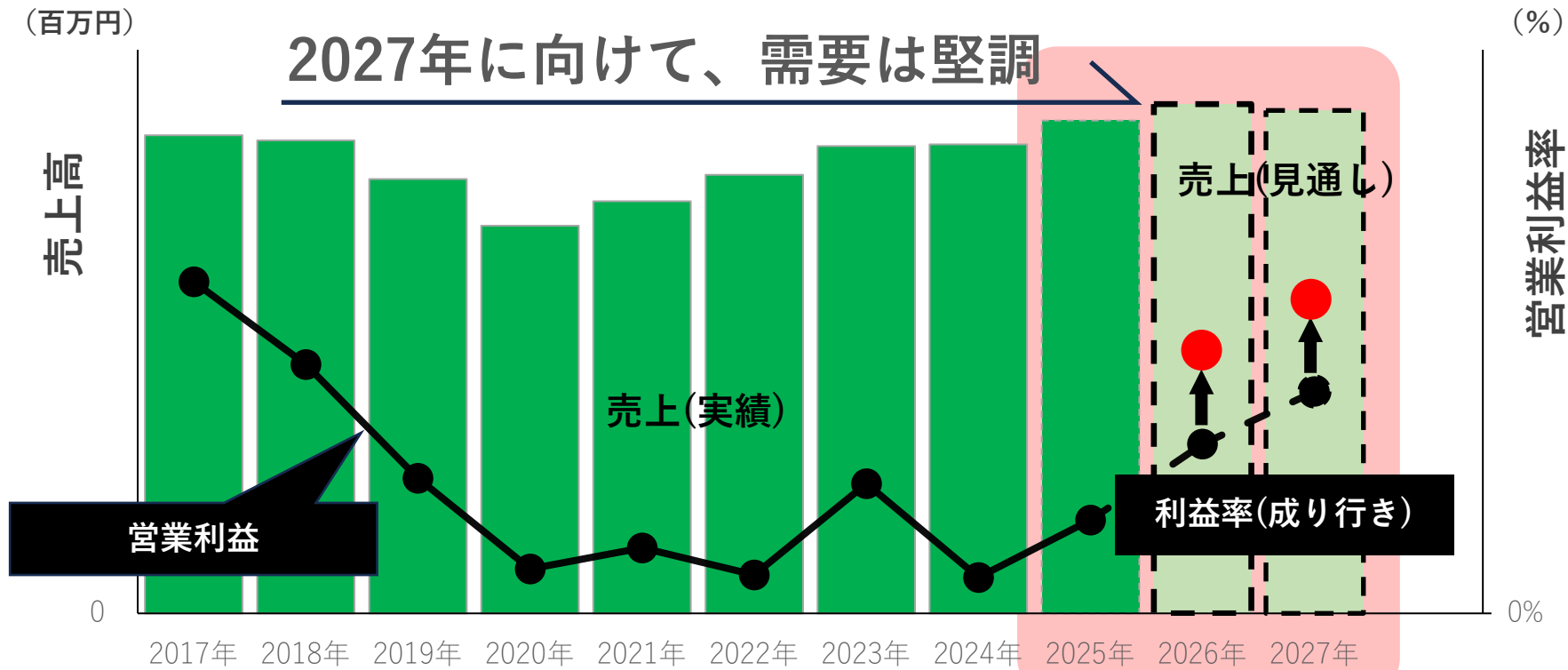
【投資実績/2019-2024年】



大豊工業 ダイカスト/ブシュ事業で「稼ぐ力」低調

ダイカスト：先行投資に対し、売上・ものづくりのレベルが追従出来ず
 ブシュ：投資を抑えた結果、人に依存した生産体制 ⇒ 生産ロス増

【～2027年 売上高と営業利益率】



2027年までは追加大型投資を抑制、事業別適正配分し、さらなる利益率向上に注力

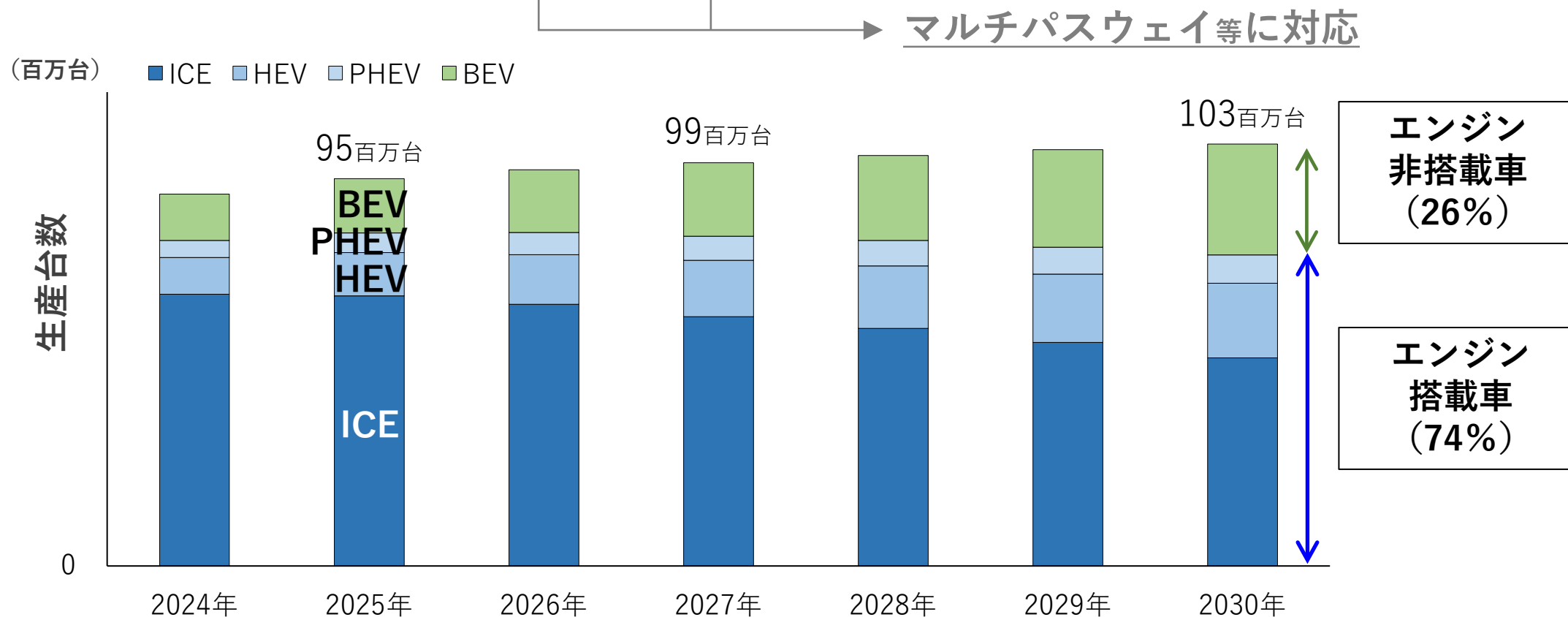
1. VISION2025の振り返り

2. 中期経営計画（2025年～2027年）

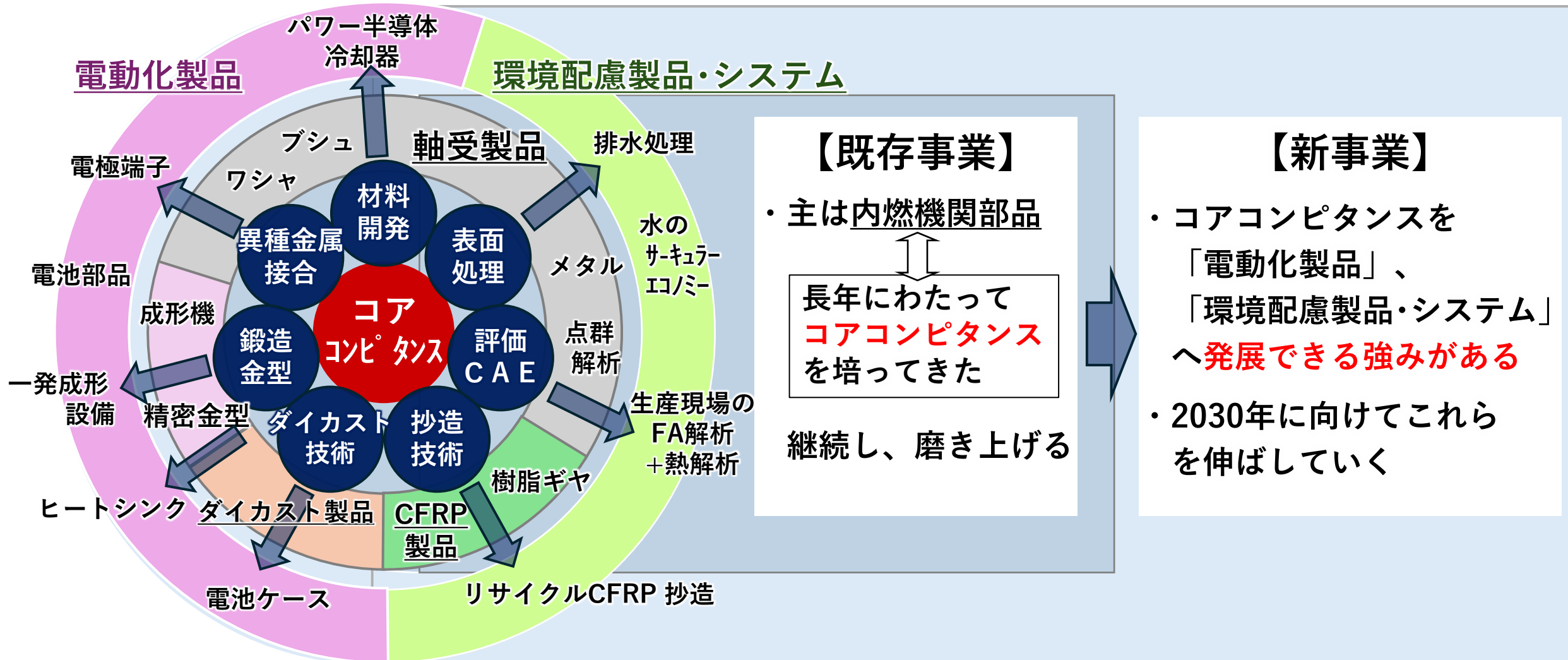
3. VISION2030

【グローバル自動車 生産台数予測】

PHEVまで含めたエンジン搭載車両（既存事業）の減少は軽微であり、BEV・エンジン非搭載車（新事業）の増加により、2030年に向けて総市場は拡大



[出典：市場調査データから自社作成]



当社のコアコンピタンスと既存事業・新事業の関係

重点取組み事項

構造改革

- ①既存事業の収益性向上
- ②成長領域へリソースシフト



事業ポートフォリオ入替え

財務体質の強化

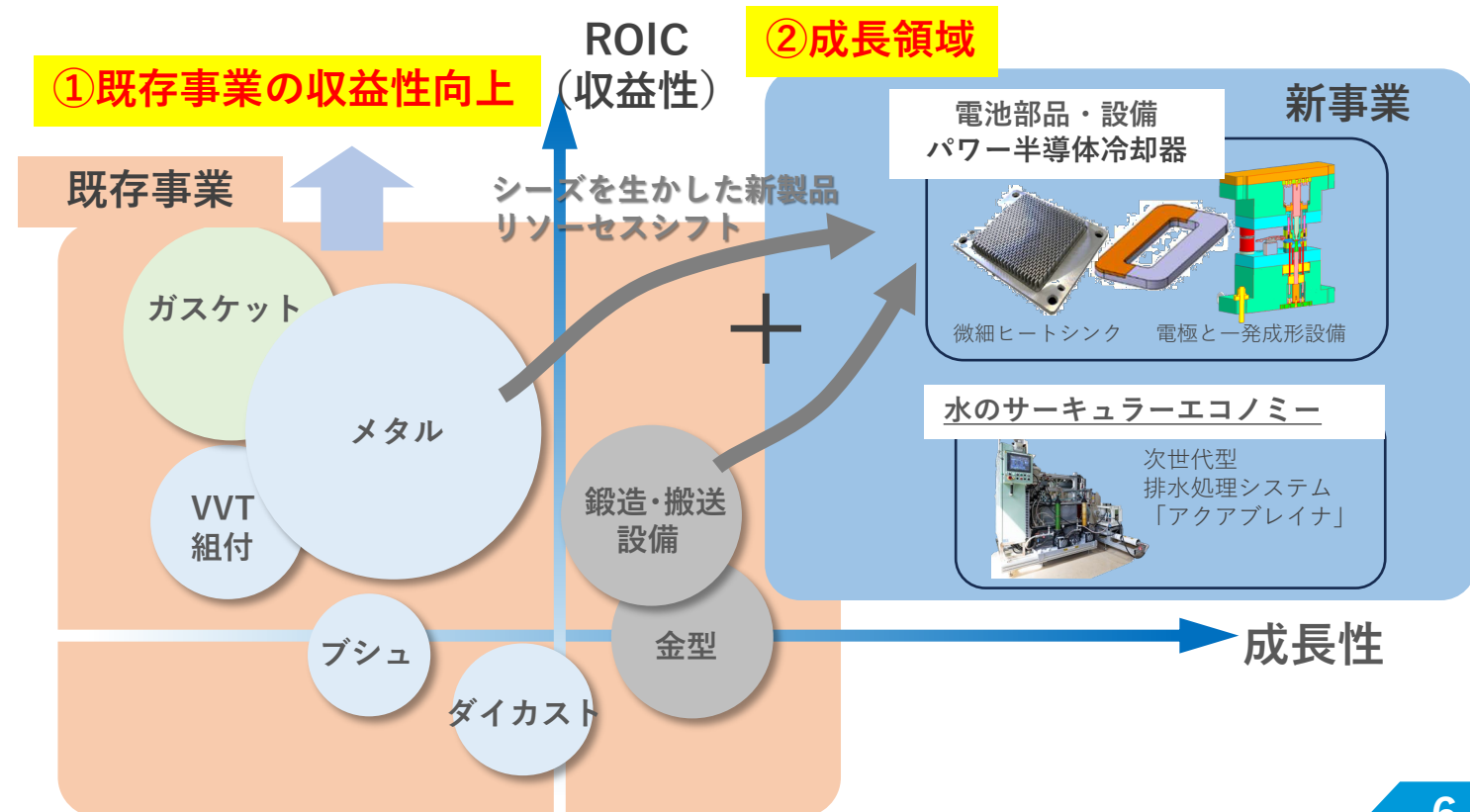
- ③バランスシートの改善
(資本効率性の向上・資金創出)
- ④自己資本のコントロール
株主還元の充実

【既存事業】

- ①ROE/ROIC目標に対して事業別ROICを管理し資本効率を改善

【新事業】

- ②我々のシーズを活かし、堅実に事業化を目指す



重点取組み事項

構造改革

- ①既存事業の収益性向上
- ②成長領域へリソースシフト



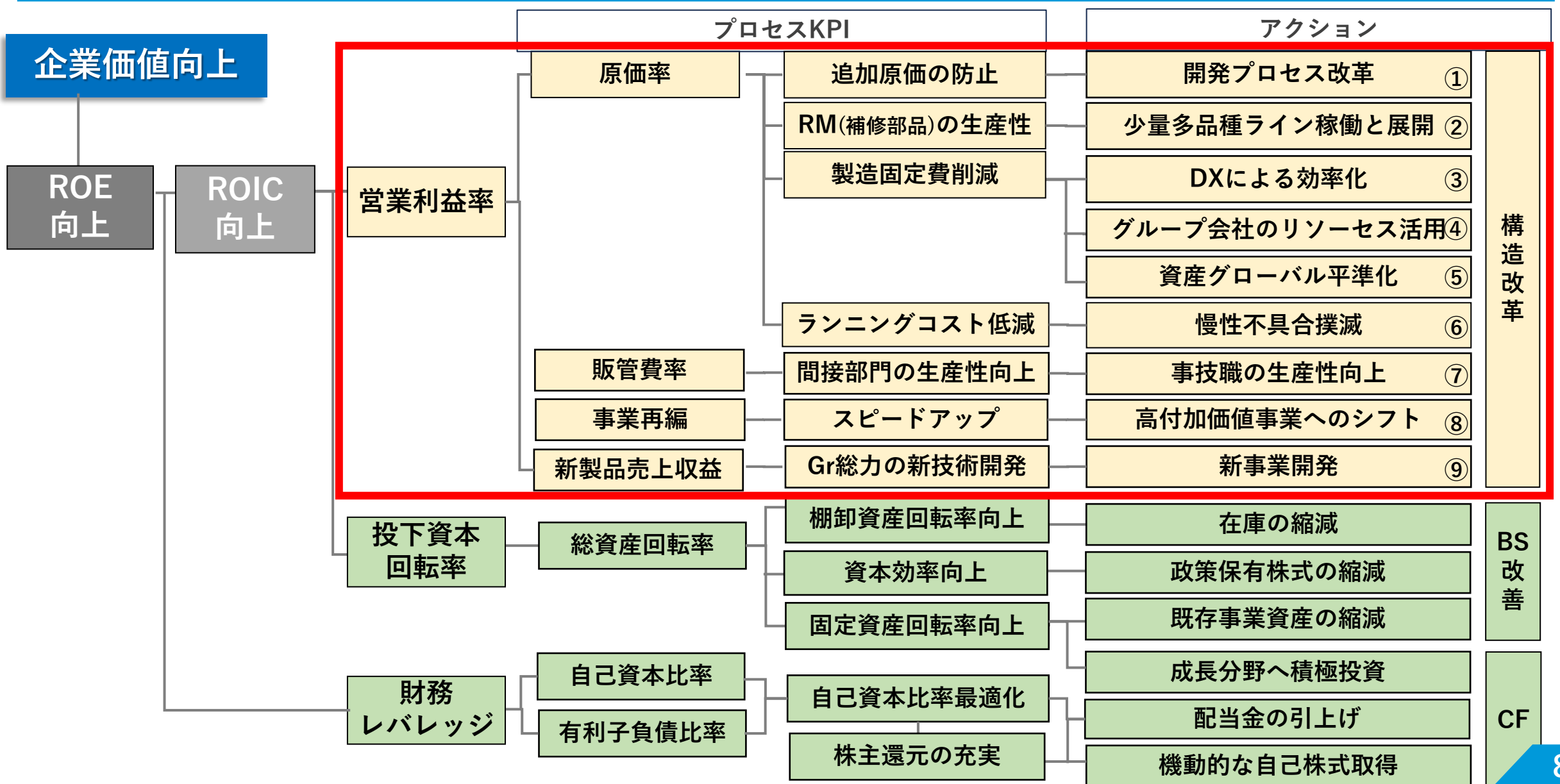
事業ポートフォリオ入替え

財務体質の強化

- ③バランスシートの改善
(資本効率性の向上・資金創出)
- ④自己資本のコントロール
株主還元の実現

経営目標値

	2024年実績	2027年目標
売上高	1,127億円	1,170億円
営業利益	6億円	50億円
営業利益率	0.5%	4.3%
ROE	-6.0%	5.0%
当期純利益	-3.7%	3%以上
総資産回転率	0.9回	1.0回以上
財務レバレッジ	1.7倍	1.7倍以上



アクション内容

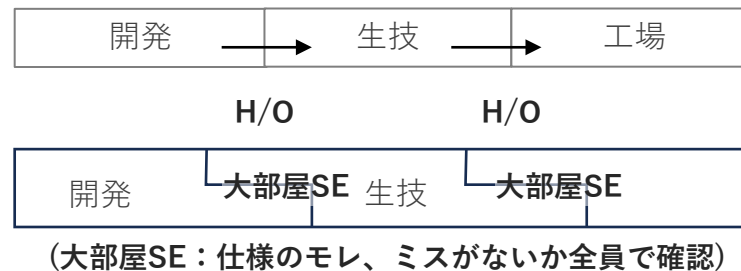
① 開発プロセス改革

「不良を直す」⇒「不良を生まない」開発プロセス

機能毎のシリーズ開発

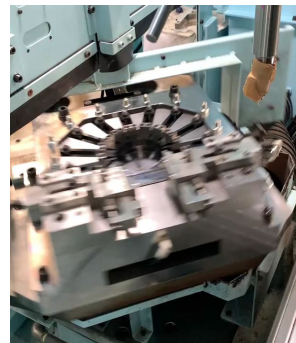
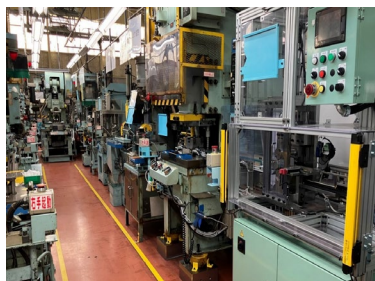


フロントローディング
大部屋SE活動

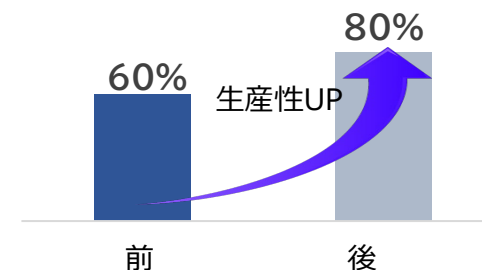


② 少量多品種ライン稼働と展開

- ・ 自動段取り開発により、製品仕掛け変更(非稼働時間)を40分/回⇒5分/回
- ・ 段取り回数の多い少量品生産を集約し、全体効率を上げる
- ・ 九州工場で2ライン稼働開始



RM専用ライン稼働前後の
大量生産ラインの可動率



営業利益効果

+ 2.1億円/年

+ 0.6億円/年

アクション内容

③DXによる効率化

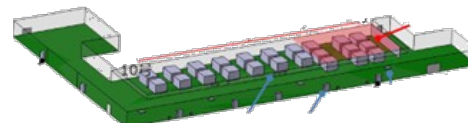
生産現場の転記作業の削減



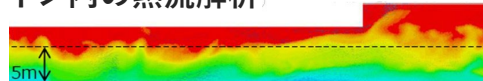
測定結果の自動転送と集計

熱解析技術を活用した暑熱対策

岐阜工場ライン図



ライン内の熱流解析

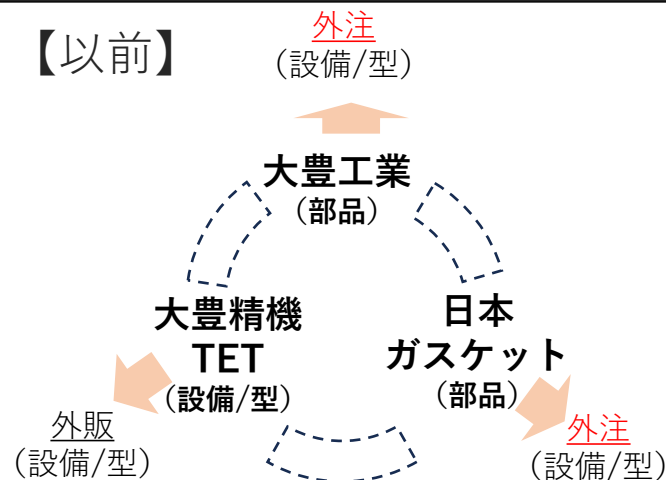


営業利益効果

+ 4.0億円/年

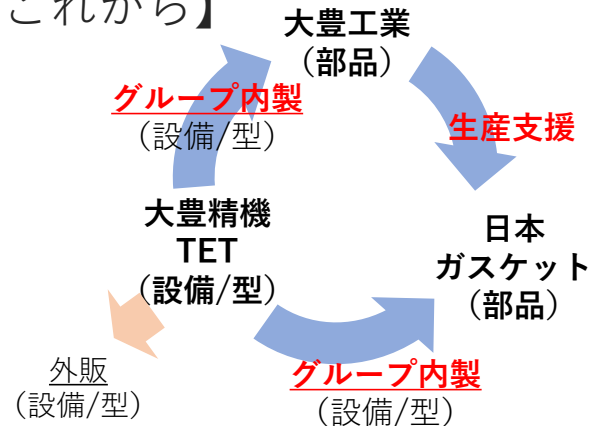
④グループ会社のリソース活用

【以前】



—出金を抑える—

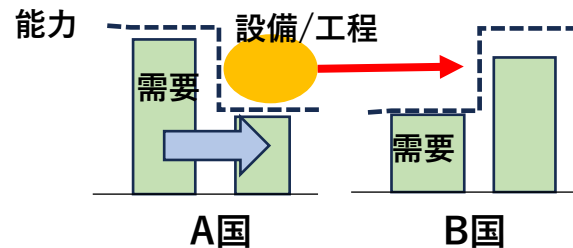
【これから】



+ 2.5億円/年

アクション内容

⑤資産の有効活用：資産グローバル平準化



- ・北米⇒欧州 樹脂コーティング設備移設
- ・日本⇒韓国 シュー生産設備集約
- ・日本⇒インドネシア 老朽更新

⑥慢性不具合撲滅⇒全員参加で継続

⑦事技職の生産性向上(10%アップ)

BR収益構造改善室＋BRマネジメント改革室を設立

- ・リソース(ヒト・モノ・金)全体最適配分
- ・指示系統の簡素化、意思決定スピードUP

⑧事業再編：高付加価値事業へのシフト

- 大豊精機 : 部品事業を縮小⇒電池搬送設備事業にリソースシフト
- ダイカスト : HEV増産対応の為、新たなパートナー会社との協業

営業利益効果

+ 0.7億円/年

+ 2.0億円/年

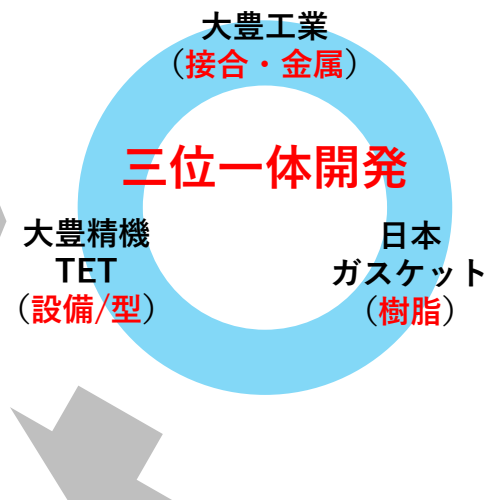
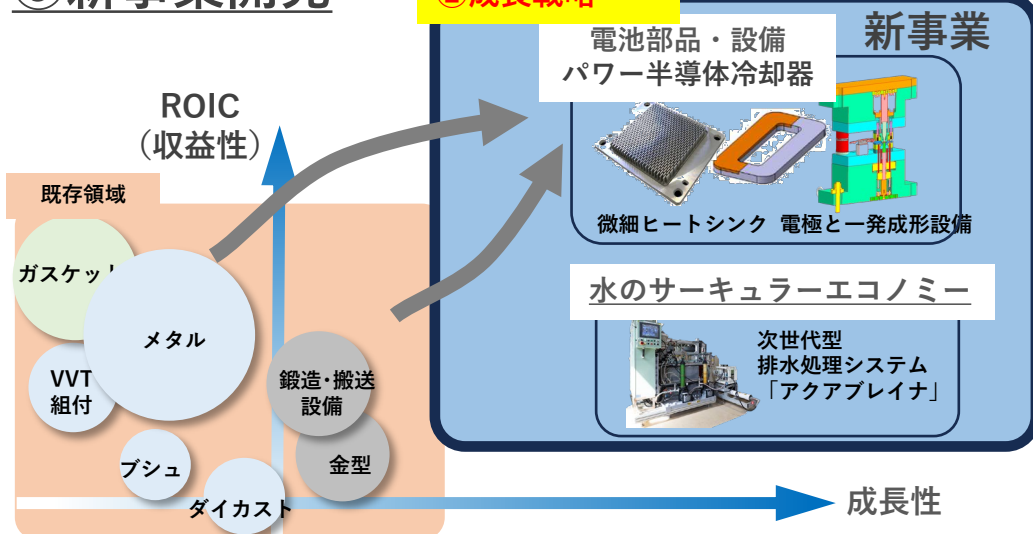
+ 1.5億円/年

+ 2.4億円/年

アクション内容

⑨新事業開発

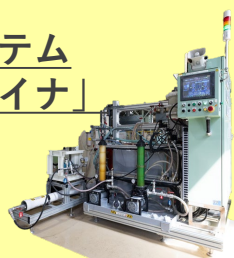
②成長戦略



営業利益効果

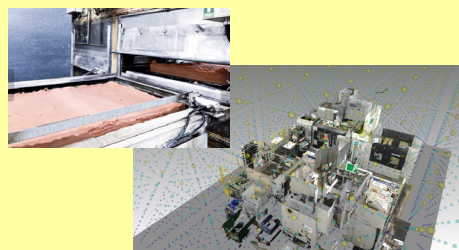
+ 1.3億円/年

次世代型 排水処理システム 「アクアブレイナ」

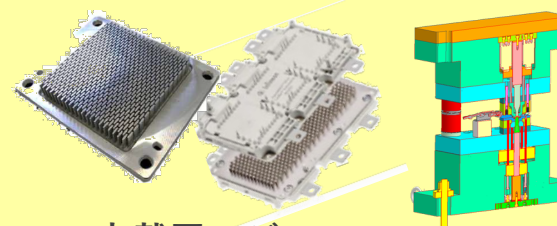


⇒ 事業化に向け2社目の導入

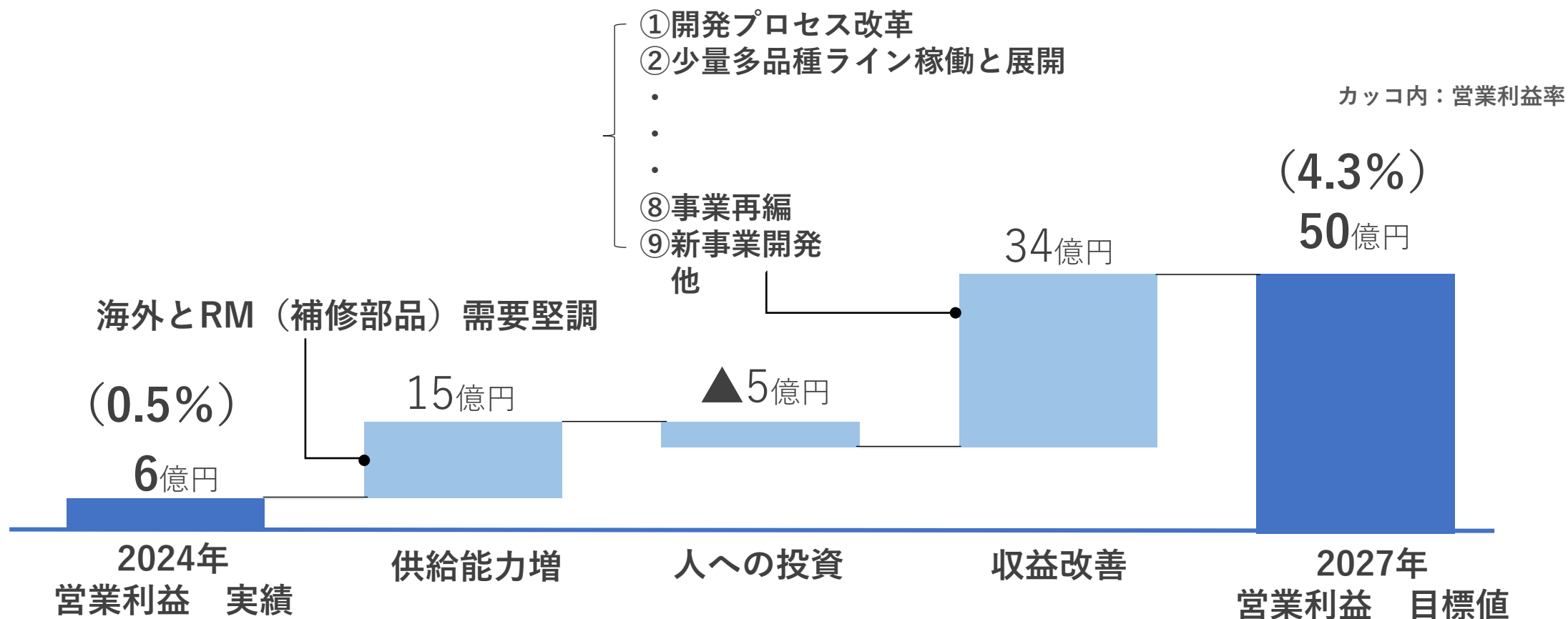
- ・ リサイクルCFRP 抄造技術
- ・ FA解析+熱解析



パワー半導体冷却器/電極端子



⇒ 車載用モジュール
お客様と共同開発開始 + 設備開発



2027年に向けて利益が出る体質へ 営業利益目標 50億円

企業価値向上

ROE
向上

ROIC
向上

営業利益率

プロセスKPI

アクション

原価率

追加原価の防止

開発プロセス改革 ①

RM(補修部品)の生産性

少量多品種ライン稼働と展開 ②

製造固定費削減

DXによる効率化 ③

グループ会社のリソース活用④

資産グローバル平準化 ⑤

ランニングコスト低減

慢性不具合撲滅 ⑥

販管費率

間接部門の生産性向上

事技職の生産性向上 ⑦

事業再編

スピードアップ

高付加価値事業へのシフト ⑧

新製品売上収益

Gr総力の新技術開発

新事業開発 ⑨

構造改革

投下資本
回転率

総資産回転率

棚卸資産回転率向上

在庫の縮減

資本効率向上

政策保有株式の縮減

固定資産回転率向上

既存事業資産の縮減

BS
改善

財務
レバレッジ

自己資本比率

自己資本比率最適化

成長分野へ積極投資

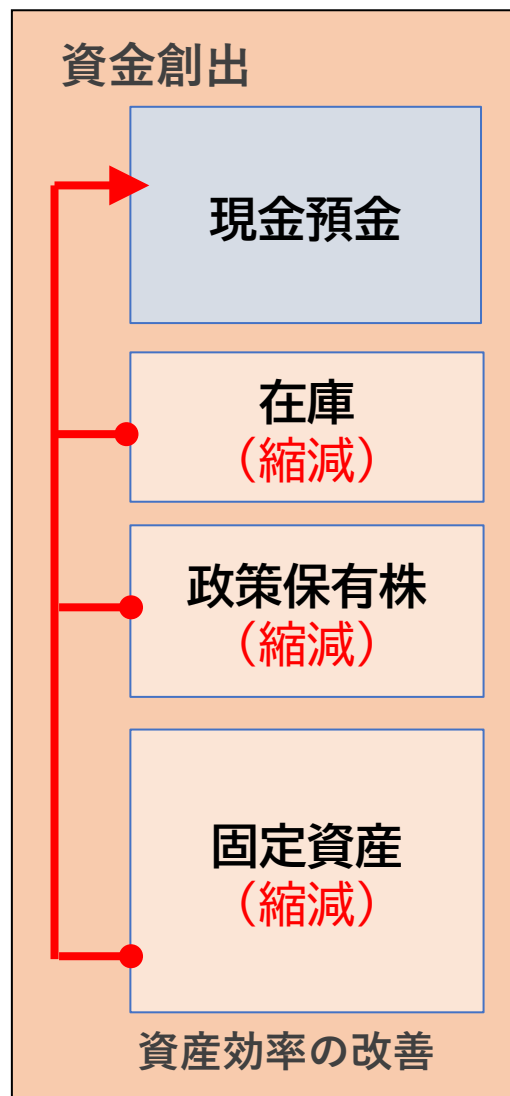
有利子負債比率

株主還元の充実

配当金の引上げ

機動的な自己株式取得

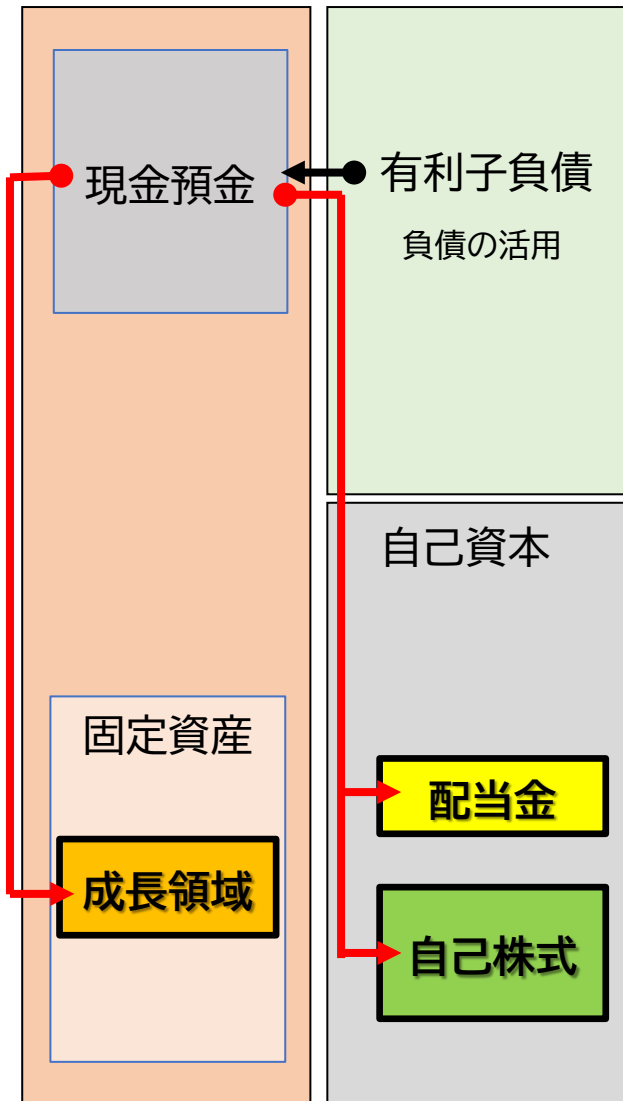
CF



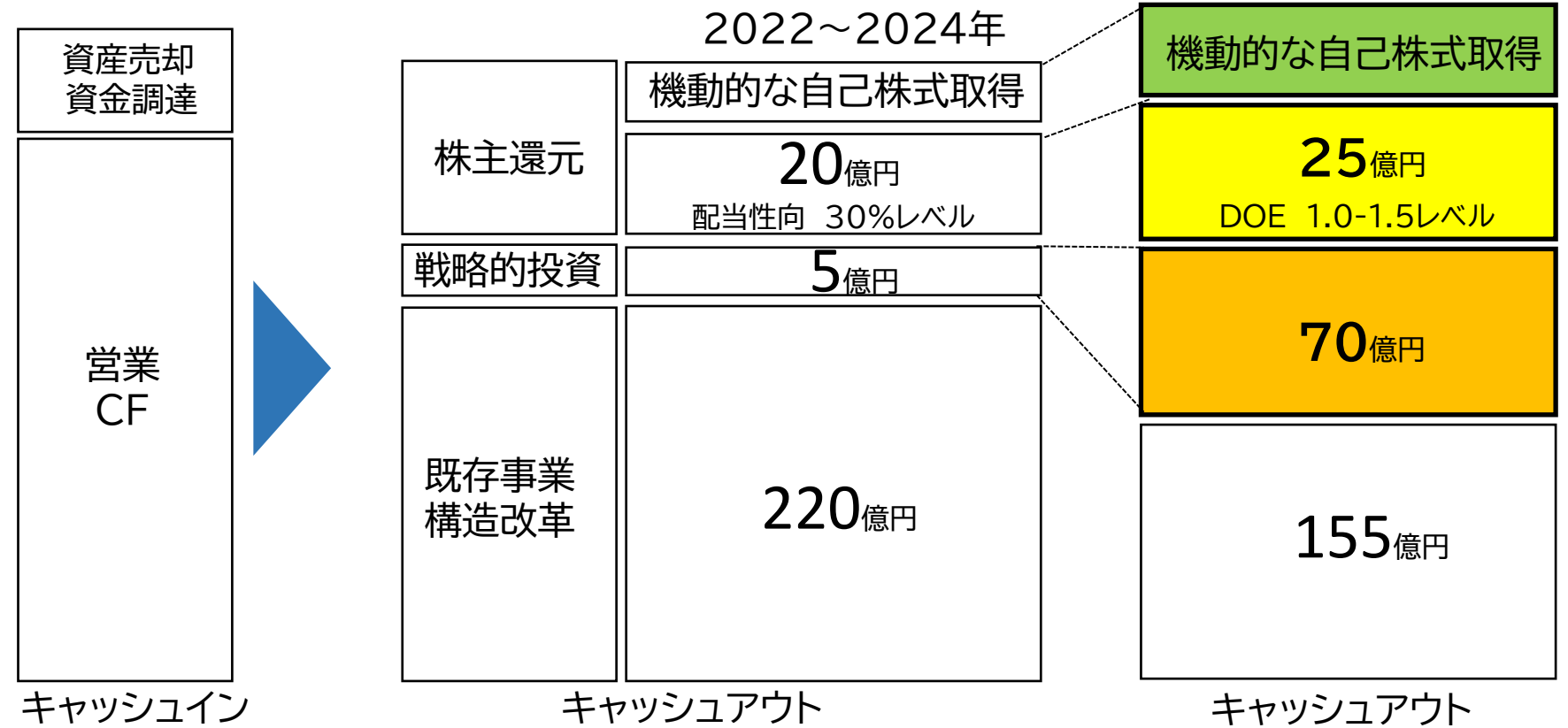
保有資産の縮減により資金創出と資産効率向上を図る

在庫	政策保有株式	既存事業資産
15 億円程度圧縮	10 億円程度圧縮	10 億円程度圧縮
DX活用 適正在庫管理	資金流動性の観点から 政策保有株式縮減	低効率資産の圧縮

総資産の5%を目標に保有資産縮減
総資産回転率 0.9→1.0以上目標



創出資金を戦略的投資・株主還元へ投入



最適資本を意識した株主還元・成長領域へ積極投資

財務体質の強化 —2027年 経営目標—

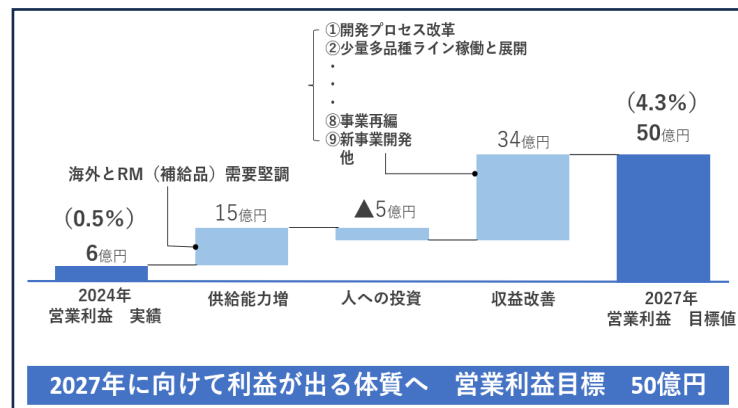
当期利益率 ▲3%→3%以上
利益率向上

総資産回転率改善 0.9→1.0以上
保有資産の縮減

財務レバレッジ安定 1.7→1.7以上
株主還元の充実等

営業利益目標 50億円(4.3%)

当期利益目標 38億円以上
(3%以上)



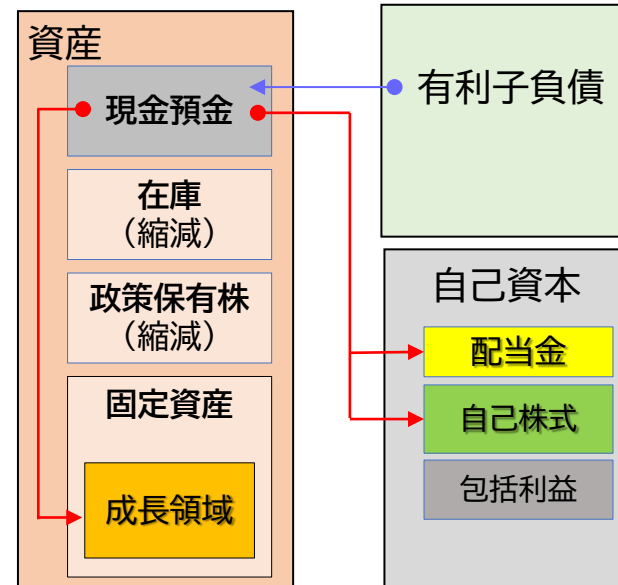
資産縮減・効率化

35億円

- ・在庫の縮減
- ・政策保有株式の縮減
- ・低効率資産の縮減

成長領域へ
積極投資

70億円



負債の活用
適正水準でレバレッジ
コントロール

自己資本のコントロール
株主還元の充実等
25億円

- ・DOE 1.0-1.5レベル
- ・機動的な自己株式取得

利益率向上に注力

効率性の重視しバランスシートをコントロール

2027年 ROE 5%以上を目指す

1. VISION2025の振り返り

2. 中期経営計画（2025年～2027年）

3. VISION2030



お客様と仲間の 笑顔のために

持続的な利益成長に向けて、変化に強い企業体質へ変革する
グループ総力を結集して、新たな価値を創出・提供する

既存事業の収益性強化 + 新領域の基盤構築

電動化対応ダイカスト製品 拡大
新領域アイテム 量産立上げ

電動化対応ダイカスト製品 拡大
新領域アイテム 量産拡大

2024年

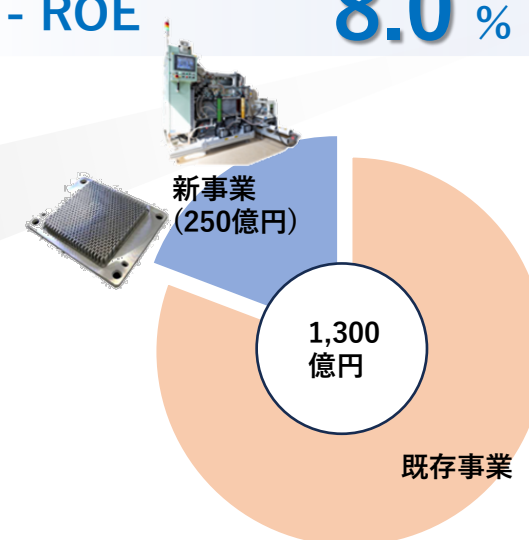
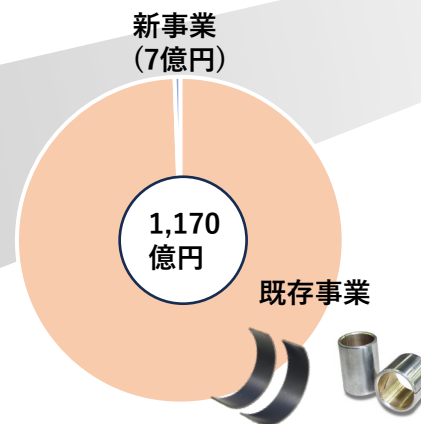
- 売上高 1,127 億円
- 営業利益 6 億円
- 営業利益率 0.5 %
- ROE ▲6.0 %

2027年

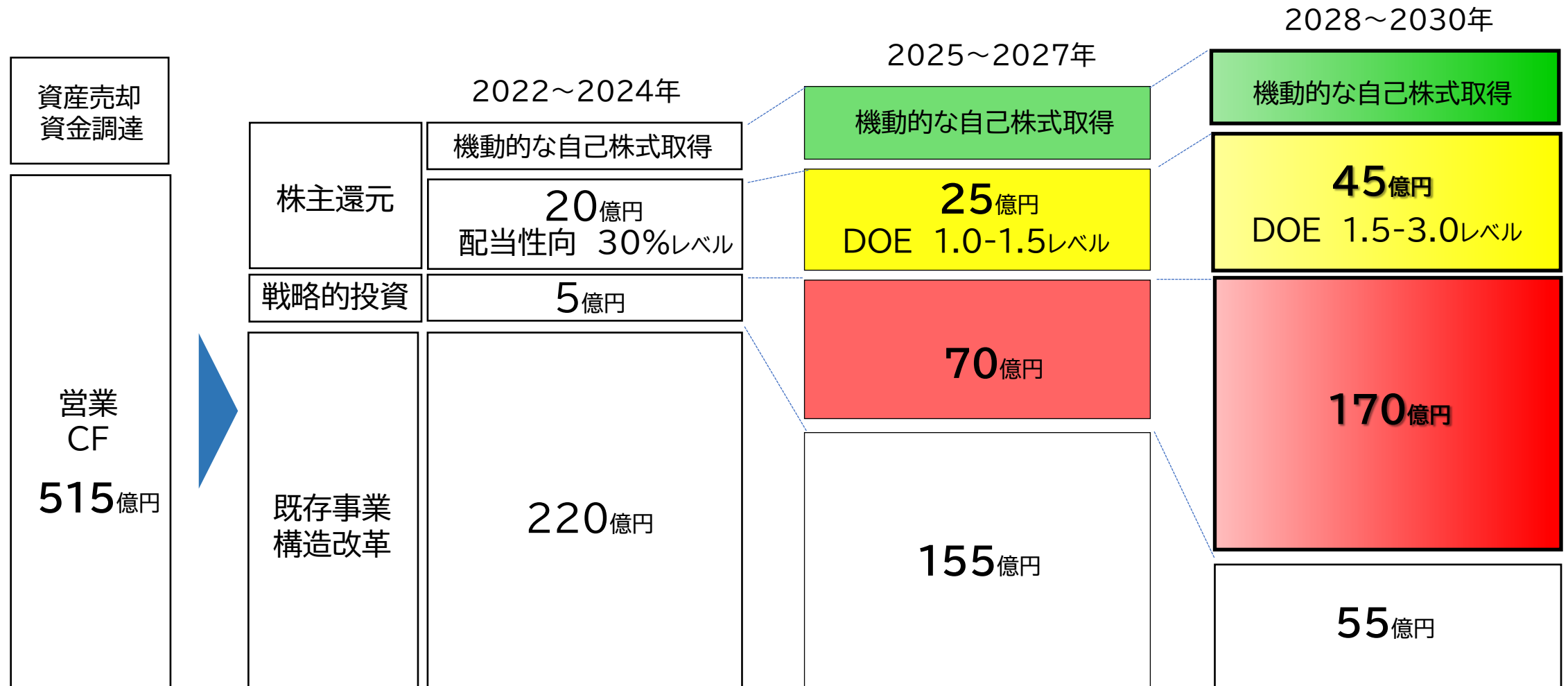
- 売上高 1,170 億円
- 営業利益 50 億円
- 営業利益率 4.3 %
- ROE 5.0 %

VISION
2030

- 売上高 1,300 億円
- 営業利益 78 億円
- 営業利益率 6.0 %
- ROE 8.0 %



更なる戦略的投資・株主還元へ積極的に投入を図る



社会からの要請・課題

地球温暖化・気候変動

少子・高齢化

価値観・働き方の多様化

モビリティの革新(CASE)

デジタル化

インプット

ビジネスモデル(事業活動)

アウトプット P15-16

アウトカム(価値提供)

経営資本 P13-14

※2024/3末現在・2023年度実績
※注記なし/限り連結

財務資本

- ▶ 総資産 1,194億円
- ▶ 自己資本比率 60.2%

製造資本

- ▶ 工場・拠点数 国内7工場/海外7拠点
グループ会社3社
- ▶ 設備投資額 64億円

知的資本

- ▶ 研究開発費 37億円
- ▶ 特許取得件数累計 1,106件

人的資本

- ▶ 連結従業員数 連結 4,107人
- ▶ 海外従業員数 1,397人

社会・関係資本

- ▶ 調達方針展開の
対象サプライヤー数 72社
- ▶ 地域・社会とのつながり

自然資本

- ▶ エネルギー使用量(単体) 104.2万GJ
- ▶ 原材料購入量(単体) 30,384t
- ▶ 水使用量(2023年/単体) 409千㎡

社是～信頼の大豊～ P1

VISION2025～地球環境とミライの社会に貢献～

P23-24

マテリアリティ P21-22

トライボロジーから発展する要素技術

技術
開発力

モノ
づくり力

価値創造の源泉(強み)

人材力

多様な人材の活躍

ESG活動
(経営基盤)

価値創造の基盤

ガバナンス P45-50

風土 P31-34

健康経営
品質向上 P35-36

軸受製品



システム製品



ダイカスト製品



ガスケット製品



自動車製造用設備



新事業領域



企業価値の最大化による社会への価値提供

地球環境、ミライの社会に
貢献する製品開発・価値提供



カーボンニュートラルに向けた
活動促進による脱炭素社会の実現



廃棄物、水リスク、環境負荷物質低減活動
を通じた循環型社会への貢献



事業活動を通じた
社会への貢献と地域との共生



多様な人材が働き甲斐を持ち、
総活躍できる風土、しくみづくり



コーポレートガバナンス・
コンプライアンスの徹底



環境

Environment

社会

Social

ガバナンス

Governance

環境

Environment

▶循環型社会、サーキュラーエコノミーへの貢献

- ・「アクアブレイナ」事業化、異業種への展開
- ・水のサーキュラーエコノミー

▶カーボンニュートラル社会実現への貢献

- ・ GHG削減活動
- ・ 再エネ導入 / 再エネ活用原材料の導入
- ・ 廃棄物削減

社会

Social

▶人的資本経営 -将来にむけた人材育成-

- ・ 社内工房「篠原BASE」の設置
- ・ 社内スタートアップ活動と醸成

▶地域社会への貢献

- ・ アグリ活動と福祉施設への貢献
- ・ 伝統野菜の保存活動 etc.

ガバナンス

Governance

▶コンプライアンス遵守

- ・ 内部通報制度の強化
- ・ コンプライアンス教育の充実

▶リスクマネジメント強化

- ・ リスク管理体制
- ・ ITガバナンス
- ・ BCM体制

環境

Environment

▶循環型社会、サーキュラーエコノミーへの貢献

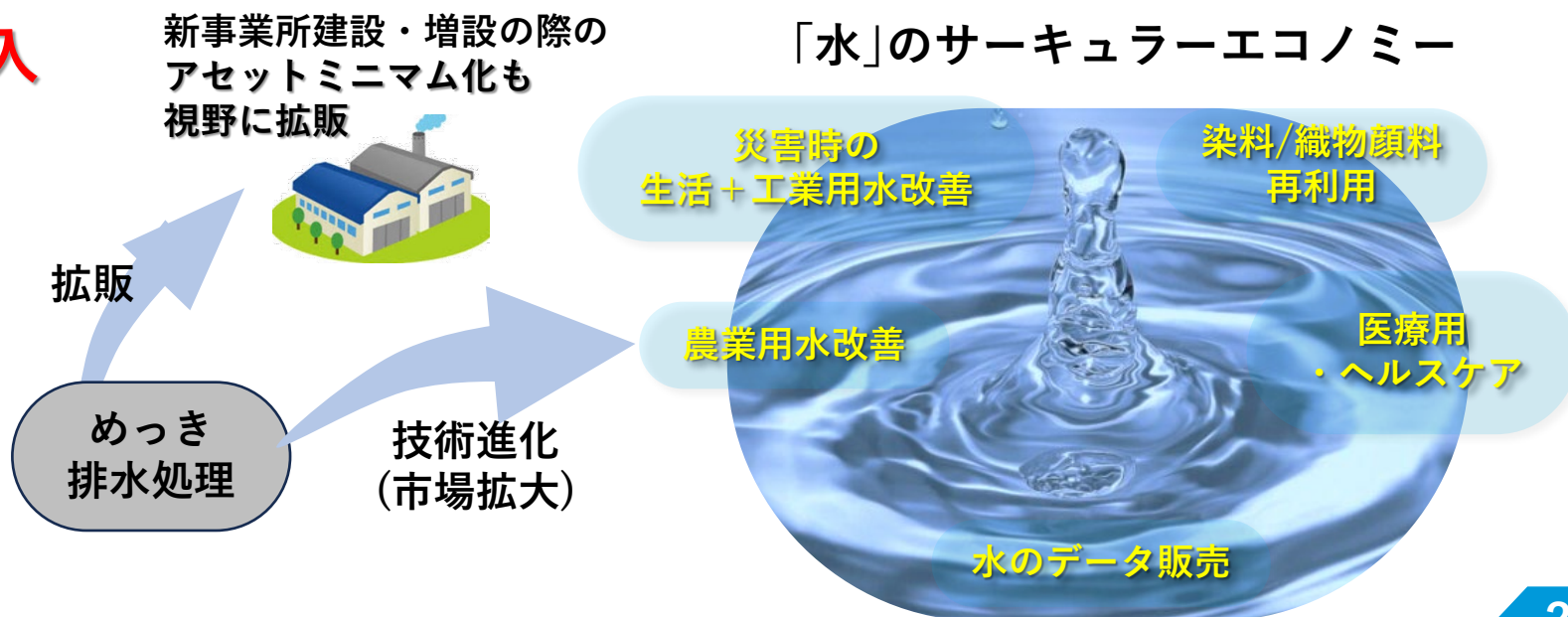
・「アクアブレイナ」事業化、異業種への展開 ・水のサーキュラーエコノミー

▶カーボンニュートラル社会実現への貢献

・ GHG削減活動 ・ 再エネ導入 / 再エネ活用原材料の導入 ・ 廃棄物削減

めっき排水処理「アクアブレイナ」→事業化に向けて量産効果確認中

- ・ 2機をお客様(めっき)に導入
- ・ 愛知環境賞受賞



社会

Social

▶ 人的資本経営 - 将来にむけた人材育成 -

- ・ 社内工房「篠原BASE」の設置
- ・ 社内スタートアップ活動と醸成

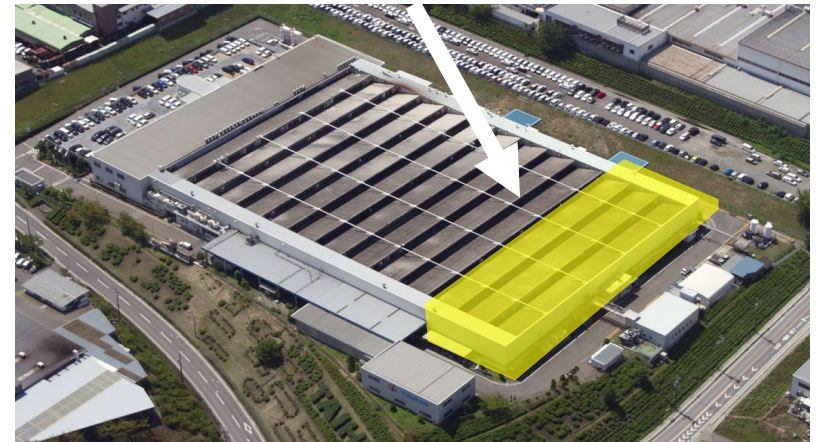
▶ 地域社会への貢献

- ・ アグリ活動と福祉施設への貢献
- ・ 伝統野菜の保存活動 etc.

スタートアップ的なアジャイル開発拠点 「篠原BASE」が稼働

- 1) 自ら「製品設計、工程(設備)製作、評価する」 **工房**
- 2) **営業、調達、開発、生技、試作評価 一体チーム編成**
(部署間の壁を取り払った組織)
- 3) **組織長のみ配置、若手中心のチーム編成**
(上下の壁を取った組織)

弊社 篠原(ささはら)工場の一角



交流・マーケティング

新たな価値創造

外部団体(スタートアップ含む)

産(異業種)学官 研究機関



ご清聴ありがとうございました